



## 2023年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年5月10日

上場会社名 株式会社サイバー・バズ 上場取引所 東  
 コード番号 7069 URL <https://www.cyberbuzz.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高村 彰典  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 膽畑 匡志 TEL 03-6758-4738  
 四半期報告書提出予定日 2023年5月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2023年9月期第2四半期の連結業績（2022年10月1日～2023年3月31日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第2四半期	2,581	18.4	133	154.3	152	166.1	77	418.3
2022年9月期第2四半期	2,180	—	52	—	57	—	14	—

（注）包括利益 2023年9月期第2四半期 76百万円（411.6％） 2022年9月期第2四半期 15百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第2四半期	19.71	19.22
2022年9月期第2四半期	3.89	3.73

（注）「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年9月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第2四半期	3,436	2,102	58.5
2022年9月期	2,617	1,993	73.3

（参考）自己資本 2023年9月期第2四半期 2,011百万円 2022年9月期 1,920百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年9月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年9月期の連結業績予想（2022年10月1日～2023年9月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,500	28.9	400	178.2	400	133.1	200	133.3	50.33

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年9月期2Q	3,987,100株	2022年9月期	3,917,100株
② 期末自己株式数	2023年9月期2Q	13,459株	2022年9月期	13,459株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年9月期2Q	3,917,872株	2022年9月期2Q	3,832,394株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(追加情報) .....	9
(セグメント情報) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限が緩和され、社会経済活動の正常化に向けた動きがみられました。一方で、エネルギー・原材料価格の高騰や急激な円安などによる物価上昇に加え、長期金利の上昇懸念等先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループが事業展開を行う2022年の国内インターネット広告市場は、インストリーム広告を中心とした動画広告需要増加や、企業の販売促進活動におけるデジタル活用が進んだことにより、前年比14.3%増の3兆912億円（注1）と推計され、2兆円を超えた2019年よりわずか3年で約1兆円増加し、3兆円規模の市場となりました。また、2022年の国内ソーシャルメディアマーケティング市場は、前年比23.0%増の9,317億円（注2）と推計されております。

このような環境の中、当社グループでは「コミュニケーションを価値に変え、世の中を変える。」をミッションとし、従来の「SMM（ソーシャルメディアマーケティング）事業」、「D2C（Direct to Consumer）事業」、「HR（ヒューマンリソース）事業」を展開してまいりました。また、第1四半期連結会計期間より新たな事業基盤の強化を目的として株式会社WithLIVEを子会社化しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高2,581百万円（前年同期比18.4%増）、営業利益133百万円（前年同期比154.3%増）、経常利益152百万円（前年同期比166.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益77百万円（前年同期比418.3%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、以下の前年同期比較につきましては、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組替えた数値で比較しております。そのため、従来報告セグメントとしていた「D2C事業」について、「その他」として記載しております。

#### ①SMM事業

SMM事業では企業がSNSプラットフォームを通して消費者へ行うマーケティング活動を総合的に支援しており、主に「インフルエンサーサービス」、「SNSアカウント運用」、「Owgi（オウギ）」、「インターネット広告販売」を行っております。

「インフルエンサーサービス」では、「NINARY」及び「Ripre」を中心に、当社グループ独自のインフルエンサーネットワークを活用したプロモーション施策の企画提案を行っております。

「SNSアカウント運用」では、企業・ブランドのSNS公式アカウントの企画・コンサルティングを含めた運用代行を行っております。

「Owgi（オウギ）」では、SNS運用効果の可視化が可能な運用管理ツール「Owgi（オウギ）」の提供を行っております。

「インターネット広告販売」では、ソーシャルメディア関連広告を中心とした、他社の広告商品の販売を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、インフルエンサーサービスの伸長により増収となり、過去最高売上高を更新いたしました。

以上の結果、SMM事業の売上高は2,401百万円（前年同期比12.9%増）、営業利益は506百万円（前年同期比6.0%増）となりました。

#### ②その他

その他では「D2C事業」「HR事業」「ライブ配信プラットフォーム事業」を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、売上高は180百万円、営業損失は23百万円となりました。

（注1）出典：株式会社電通「2022年 日本の広告費」

（注2）出典：サイバー・バズ/デジタルインファクト調べ「2022年 国内ソーシャルメディアマーケティングの市場動向調査」

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は2,550百万円となり、前連結会計年度末に比べ338百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が170百万円、受取手形及び売掛金が159百万円増加したことによるものであります。固定資産は885百万円となり、前連結会計年度末に比べ480百万円増加いたしました。これは主にのれんが268百万円、顧客関連資産が113百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は3,436百万円となり、前連結会計年度末に比べ818百万円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は891百万円となり、前連結会計年度末に比べ267百万円増加いたしました。これは主に買掛金が92百万円、1年内返済予定の長期借入金が108百万円増加したことによるものであります。固定負債は441百万円となり、前連結会計年度末に比べ441百万円増加いたしました。これは主に長期借入金378百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は1,333百万円となり、前連結会計年度末に比べ709百万円増加いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は2,102百万円となり、前連結会計年度末に比べ109百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が77百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は58.5%（前連結会計年度末は73.3%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ170百万円増加し、1,624百万円となりました。

当第2四半期連結結果計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は131百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益152百万円、減価償却費41百万円による増加要因、売上債権の増加45百万円による減少要因によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は461百万円となりました。これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出456百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は500百万円となりました。これは主に、長期借入れによる収入540百万円、長期借入金の返済による支出54百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2022年11月9日の「2022年9月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。なお、2023年9月期の連結業績予想に与える新型コロナウイルス感染症の影響は、軽微であると考えております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,453,932	1,624,915
受取手形及び売掛金	697,191	857,031
商品及び製品	844	330
貯蔵品	1,036	921
その他	59,775	67,745
流動資産合計	2,212,781	2,550,943
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	61,804	61,804
減価償却累計額	△7,930	△15,401
建物附属設備 (純額)	53,874	46,403
車両運搬具	3,962	3,962
減価償却累計額	△3,962	△3,962
車両運搬具 (純額)	0	0
工具、器具及び備品	72,304	73,866
減価償却累計額	△31,275	△38,549
工具、器具及び備品 (純額)	41,028	35,317
有形固定資産合計	94,903	81,721
無形固定資産		
のれん	63,530	332,373
ソフトウェア	166	8,257
顧客関連資産	—	113,957
その他	—	72,761
無形固定資産合計	63,697	527,349
投資その他の資産		
投資有価証券	70,884	69,872
繰延税金資産	39,959	30,486
敷金及び保証金	114,187	132,363
その他	21,364	43,542
投資その他の資産合計	246,395	276,265
固定資産合計	404,995	885,336
資産合計	2,617,776	3,436,280

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	369,352	462,106
1年内返済予定の長期借入金	—	108,000
契約負債	2,831	29,213
未払金	82,080	93,198
未払法人税等	55,237	72,506
ポイント引当金	15,220	11,470
その他	99,775	115,343
流動負債合計	624,497	891,839
固定負債		
長期借入金	—	378,000
繰延税金負債	—	63,901
固定負債合計	—	441,901
負債合計	624,497	1,333,740
純資産の部		
株主資本		
資本金	470,746	478,046
資本剰余金	470,746	478,046
利益剰余金	1,009,874	1,087,078
自己株式	△32,647	△32,647
株主資本合計	1,918,718	2,010,522
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,316	957
その他の包括利益累計額合計	1,316	957
新株予約権	73,244	91,060
純資産合計	1,993,279	2,102,539
負債純資産合計	2,617,776	3,436,280

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
売上高	2,180,099	2,581,864
売上原価	1,122,930	1,415,210
売上総利益	1,057,169	1,166,653
販売費及び一般管理費	1,004,823	1,033,548
営業利益	52,345	133,105
営業外収益		
ポイント収入額	—	2,323
助成金収入	2,648	14,100
敷金償却戻入益	—	5,077
雑収入	3,160	127
営業外収益合計	5,808	21,629
営業外費用		
投資事業組合運用損	361	605
支払利息	—	1,316
雑損失	372	0
営業外費用合計	734	1,922
経常利益	57,418	152,812
特別利益		
投資有価証券売却益	5,714	—
特別利益合計	5,714	—
税金等調整前四半期純利益	63,132	152,812
法人税、住民税及び事業税	11,444	73,309
法人税等調整額	36,794	2,298
法人税等合計	48,238	75,608
四半期純利益	14,894	77,203
親会社株主に帰属する四半期純利益	14,894	77,203

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益	14,894	77,203
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	126	△359
その他の包括利益合計	126	△359
四半期包括利益	15,020	76,843
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,020	76,843

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	63,132	152,812
減価償却費	16,833	41,244
のれん償却額	7,941	38,695
投資事業組合運用損益 (△は益)	361	605
助成金収入	△2,648	△14,100
敷金償却戻入益	—	△5,077
株式報酬費用	18,683	17,816
支払利息	—	1,316
投資有価証券売却損益 (△は益)	△5,714	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△132,915	△45,793
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△4,815	629
仕入債務の増減額 (△は減少)	168,875	19,778
未払金の増減額 (△は減少)	△2,290	△10,226
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△740	△3,750
契約負債の増減額 (△は減少)	△75,742	6,176
その他	60,610	△12,623
小計	111,572	187,504
利息の支払額	—	△1,316
助成金の受取額	1,248	4,817
法人税等の支払額	△9,852	△59,282
法人税等の還付額	14,969	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	117,937	131,722
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	△57,500	—
投資有価証券の売却による収入	5,714	—
有形固定資産の取得による支出	△31,350	△1,562
敷金及び保証金の差入による支出	△7,531	△1,506
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△44,647	△456,341
その他	△12,000	△1,929
投資活動によるキャッシュ・フロー	△147,314	△461,339
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	—	540,000
長期借入金の返済による支出	△25,362	△54,000
株式の発行による収入	14,250	14,600
自己株式の売却による収入	79,920	—
その他	△1,120	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	67,687	500,600
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	38,309	170,983
現金及び現金同等物の期首残高	1,316,190	1,453,932
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,354,500	1,624,915

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について、重要な変更はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年10月1日至2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	SMM事業				
売上高					
外部顧客への売上高	2,127,296	52,803	2,180,099	—	2,180,099
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,847	882	3,729	△3,729	—
計	2,130,143	53,685	2,183,829	△3,729	2,180,099
セグメント利益又は損 失(△)	477,716	△53,205	424,510	△372,165	52,345

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、D2C事業、HR事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△372,165千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する事項

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間に、スタイル・アーキテクト株式会社の株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、SMM事業においてのれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は第2四半期連結累計期間において79,413千円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自2022年10月1日至2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	SMM事業				
売上高					
外部顧客への売上高	2,401,402	180,461	2,581,864	—	2,581,864
セグメント間の内部 売上高又は振替高	220	95	315	△315	—
計	2,401,622	180,556	2,582,179	△315	2,581,864
セグメント利益又は損 失(△)	506,312	△23,153	483,159	△350,054	133,105

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、D2C事業、HR事業、ライブ配信プラットフォーム事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△350,054千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更)

第1四半期連結会計期間より、従来報告セグメントとしていた「D2C事業」について、当社におけるD2C事業の撤退に伴い、当社グループにおけるD2C事業の重要性が乏しくなったため、「その他」として記載する方法に変更しております。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する事項

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間に、株式会社WithLIVEの株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、その他において、のれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は当第2四半期連結累計期間において307,538千円であります。なお、当該のれんの金額は企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映されております。